

# おまたせしました！今年度最後のバイキング



今月は月曜と木曜コースの方々のためのバイキング昼食会が開かれました。おいしいと評判のメニューに加え、手作りの漬け物も好評でした。ごちそうさまでした！

# デイサービス

大津町社会福祉協議会

発行

大津町  
社会福祉協議会  
大津町室 151-1  
☎293-2949

## わたしの宝の6

松永嘉徳さんは四、五年前から地区の小学校に出向き、修学旅行に行く前の6年生に戦争の体験談を話されています。

松永さんが向かった戦地は赤道を越えた西部ニューギニア。子ども達に正確に伝えたいと、自ら世界地図まで携えて写真や持ち帰った貴重な資料も揃えておられました。その真摯な姿に、子ども達はいつも真剣に聞き入っているそうです。

話を聞き終えた子ども達から届けられた感想文には、九割の仲間が死んでいった過酷なジャングルで、松永さんが生きぬいたことへの驚きと感動が書かれました。

十二人兄弟の長男である松永さんが陸軍から召集されたのは、昭和十七年、二十一歳のとき。戦地へ出発の日、お父さんは婚約者（後の奥様）を連れて何時間もかけて小倉駅まで見送りに来て、松永さんの手を握り、小さい声でこう言いました。「お前は長男だから生きて帰れ。死ぬなよ。」  
その言葉は、ジャングルで道や滑走路を作り、飢えをしのぐためにタピオカなどの作物を作り、また戦わずして病死や自死する多



さん(写真左)自然体の優しさに心が温かくなりました。

## ちよっさい風景

ひな人形の仕上げをするある日、お休みされて遅れていた人の横に立ち、手伝いをはじめた矢嶋



松永嘉徳さんの周囲にはいつも自然に人が集まります。

くの仲間がいた中で、生きぬくことへの強い力になったといえます。お父さんは再び汽車を乗り継ぎ、家にたどりついた後、心労と疲労で倒れて亡くなりましたが、そのお父さんの死を知るのは、昭和二十一年五月末、復員してからのことでした。  
お父さんが文字どおり命がけで伝えた言葉こそ、九十四歳になる今も松永さんを支え続けている宝ものではないでしょうか。